

なぜ公務員を目指しましたか？

Q1 なぜ公務員になろうと思いましたか？

- ・早い段階から、公務員と決めていたわけではなく、民間と平行して、検討していた。公務員の方がいいと思ったのは、面接をしてくれた方々が、問題意識をきちんと持ち、責任感を持って仕事に望んでいる姿勢が魅力的に思えたから。
- ・自分のための仕事ではなく、ひとの役に立つ仕事がしたいと考えたため、公務員になることを希望するようになった。
- ・研究開発職として民間企業への就職を考え、工場見学等を繰り返していたところ、特定の会社の特定の製品のみを開発し続けることに疑問を持っていた。そのような折、公務員試験に最終合格し、官庁訪問を行っている過程で公務員の仕事について知った結果、研究開発とはまた違う意味で創造的な仕事であると考えられたため、最終的に公務員を選んだ。
- ・就活で色々な業界を見る中で、自ら直接人のためになる仕事よりも、直接人のためになる仕事をしている人たちが活動しやすい枠組みを創造する仕事の方に興味があることに気づいたから。
- ・科学的根拠に基づかない政策の推進を是正したいと思ったから。
- ・約2年ごとに異動するという慣習が、「色々な仕事をやってみたい」という自分の希望と一致したから。
- ・せっかく働いて、お金をもらうなら人の役に立つ仕事に就きたいと漠然と考えたから。また、自分の考えを素直に行動に移せるのも公務員であると教わったから。
- ・公の仕事にやりがいがあると感じたから。
- ・大学入学時点では、大学院への進学、その後研究の道へというステップも想定にはあったものの、アカデミックな道を追求するには大きなリスクがあるとも考えていた。他方、民間企業での仕事は、利潤の追求が第一命題であり、そのために倫理的な問題を二の次にする場面があるだろうとのイメージがあった。そのような形で得られる収入に生活を頼ることには若干の抵抗感もあり、公務員であれば、より公益に資する仕事ができる可能性が高いのではないかと考え、公務員を第一志望とした。
- ・自分の専門分野を全面に出した企業への就職や大学での研究への道では味わうことのできない「幅広い業務ができる」という点に惹かれたため。
- ・公共のために仕事ができる。
- ・どんな仕事でも人の役に立っているが、本当に困っている、行政の助けがなければ生きていけない人たちの役に立つ仕事がしたかったから。
- ・最もやりがいを感じられる仕事だと思ったから。
- ・民間企業の合同説明会で中央省庁のブースがあり、惹かれる物があったから。

Q2 公務員試験の勉強方法は

- ・共通部分は、勉強はまったくしなかった。専門試験（建築）については、構造や材料部分は大学で学んだところと差異はなかったので、勉強はせず、大学の授業と異なっていた設備分野について勉強した。使ったテキストは1級建築士試験の問題集。
- ・特にしなかった。
- ・公務員対策を行っている予備校のテキストで、一次試験の勉強を数ヶ月行った。理系の専門分野については自信があったため、文系の一般知識（文学等）を中心に勉強した。
- ・自由応募で民間の就活を行いつつ、約1ヶ月前から勉強を開始した。特に1次試験の直前1週間は研究をせずに勉強した。
- ・過去問を中心に取り組んだ。
- ・公務員予備校を活用し、試験勉強をした。
- ・通信講座を申し込むとともに、国家公務員試験の過去問題の研究を行った。
- ・まずは、過去問集のようなものを入手し、ざっと目を通してみた。結果的には、自分自身が特定の分野に偏った学問を志してきていなかったことも逆に幸いし、（旧I種のうち理工I区分であれば）特に追加的な試験勉強をする必要は無いだろうと思われたため、一通り試験範囲を確認するだけで済んだ。
- ・専用試験は選択分野が多く、自分が専攻していた分野のみで回答問題数が充足されていたので、特段勉強はしなかった。教養試験についても、大学受験時代の勉強と共通する部分も多いので、過去問を解いて慣れておいたり、大学受験時代の参考書を復習しておく程度でよいかと。
- ・学校の勉強（教科書等）
- ・人事院から過去問を取り寄せ、問題をひたすら解く。
- ・大学院の院試の復習を行う気持ちで臨んだ。勉強不足でやっと合格という状況だったが、席次はどうであれ合格さえすればなんとかなると思う。
- ・自学自習。
- ・教育→店頭の書籍 専門→研究室の先輩からもらった過去問



なぜ厚生労働省を選びましたか？

Q3 なぜ厚生労働省に入ろうと思いましたか？

- ・入るのであれば、一番課題が多い省庁がいいと思った。
- ・業務説明において、働く人の生命・身体を守る仕事に誇りを持っている諸先輩方のお話を聞くことができ、一緒に働きたいと思った。
- ・官庁訪問でいくつかの省庁で説明及び面接を受けた結果、最も話の感触が良かった。
- ・環境問題に取り組みたいと考えていたので第1志望ではなかったが、化学物質対策を扱っており、自分の取り組みたい環境問題に割合と近いのではないかと思ったから。
- ・労働者＝誰かにとっての両親であり兄弟であり友達であり・・・大切な人。厚生労働省での仕事は、そうしたかけがえのない人たちを守るための仕事と思い、魅力を感じた。
- ・「人」の生活に最も近い役所であると感じたから。また、人材育成や海外協力等仕事の幅広さが魅力的であったから。
- ・「働く人々を守る」という仕事にやりがいと重要性を感じると共に、これからますます必要とされると思ったから。
- ・旧Ⅰ種のうち、理工Ⅰ区分で官庁訪問が可能でも、自分がほとんど触れていない分野のイメージが強い省庁（具体的には、国土交通省ならば建築・土木系、環境省ならば環境技術のような）は何となく避けていた。正直、厚生労働省は理工Ⅰのイメージが全く無かったため候補としては考えていなかったが、省庁説明会で厚生労働省のブースがあり、業務説明を受ける機会があったため、候補として考えるようになった。
- ・厚労省の扱う分野がかなり広く、自分の公務員のメリットに合致すると思ったから。
- ・社会的弱者の立場に立って仕事ができる。
- ・他の省庁と比べ、社会の関心が高く、やりがいがあると考えたから。
- ・他の省庁、他の職業よりも困っている人を直接的に、本質的に助けられる仕事ができると思ったから。
- ・人の生活の根幹に関わる業務を行っている省庁であり、そこにやりがいを感じたから。
- ・説明会で大学の専攻とのつながりを見つけ、やりがいを感じたから。

Q4 入省前後で、厚生労働省の印象は変わりましたか？

- ・うまく説明ができないが、良くなった。
- ・あまり変わっていません。
- ・入省後、極めて幅広く、国策を左右する分野の仕事が多くあることに気づかされ、自分の知識も含め、印象は大きく変わった。
- ・細部までイメージできていたわけではないが、特にギャップはない。
- ・業務内容が多岐にわたり専門を活かせる機会がありつつも、それにとられることなく様々な分野に挑戦できると思った。
- ・大きく変わった。世間的に何となく悪いことをしている役所という印象から、目の前の問題に正面から真摯に向かう役所であるという印象に変わった。
- ・人の命に直結する仕事なので当然だが、プレッシャーのかかり方が違うと感じた。
- ・入省前後では大きな変化はなし。敢えて言うならば、執務スペース（や資料の保管スペースなどなど）が予想だにしない狭さだったことくらい。
- ・良くも悪くも機分かは変わったが、「その組織に入ったら、外からでは見えなかった部分が見えてくる」「学生時代と社会人でいろんなことへの印象がかわった。」ことに起因することかと。
- ・堅苦しいイメージが無くなった。
- ・ただ皆さんよく働くなと思うばかり。
- ・入省してみて「守備範囲」の広さに驚いた。入省前に考えていたよりも、もっと幅広く人の人生に関わる仕事だなと感じるようになった。
- ・通常業務について、予想以上にルーチンワークが多い（配属先に困るところが大きいと思う）。
- ・想像していた以上にコアな（細かな）部分まで課室がある。



厚生労働省ってどんな職場？

Q5 これまでで一番印象に残っている仕事は？

- ・研修で監督署に行った際、実際に労働災害に遭って、脚を切断された方に事情聴取したこと。自分の仕事の必要性・重要性を実感した。
- ・化学物質の規制にあたり、国際標準（GHS）を取り入れる法改正の施行のための政令改正を担当した際に、化学業界、経済産業省の反発があったが、丁寧に説明を繰り返し説得をしていった上司の姿が印象に残っている。
- ・外国人労働者の受入れの問題について、入省するまで考えもしなかった問題であったが、今後の日本の将来を左右する重要な問題と理解している。
- ・ある法令の規制対象の化学物質を実質30～40年ぶりに追加するに当たって、法令中の各規制のどれを課すべきか検討するため、過去の文献などを調べつつ、その法令中の各規制の趣旨・必要性などを理論的に整理した業務が一番印象に残っている。
- ・今後の化学物質管理のあり方の検討（法改正に関わる業務）／職場におけるメンタルヘルス対策の検討（法改正に関わる業務）／国会対応や各業務の連絡調整といった、局の窓口業務。
- ・東日本大震災におけるアスベスト対策。
- ・メンタルヘルスのポータルサイトを作る時の仕様書作成の補助業務。ODA国別評価の関係でフィリピンに出張した際、途上国の現場を実際に見ることができたこと。
- ・東日本大震災を受けての（張りつめた空気の中での）緊急案件の数々。
- ・原発事故直後における対応。
- ・委託事業で、被災3県の約11万人の労働者に健康診断を実施したこと。
- ・入省1年目で東日本大震災の対応をしたこと。私たちが支えるべき人の多さ、私たちの仕事と与える影響の大きさ、仕事の重要さをあらためて実感させられた。
- ・OECDの会議に参加したこと。

Q6 厚生労働省に入って良かったと思うことは？

- ・同期（省内、他省庁含めて）等の中の良い友だちがたくさんできたこと。
- ・直接、働く人のためになると思える仕事があること。
- ・極めて幅広く、国策を左右するような大きな仕事ができる。また、日々新しい業務があり、全く知らない分野に挑戦できることも大きな魅力のひとつ。
- ・行政や政治がどのような仕組みで動いているか、ある程度知ることができたこと。
- ・目の前にある社会問題の本質的な課題等に触れる機会があること。
- ・国の政策の企画立案ができること。第一線で活躍する専門家や民間企業の幹部クラスと直にやりとりでき、最新の情報や専門知識にふれることができること。
- ・厚生労働省は、一つ一つの業務に対して実に官庁のイメージに即したまっとうなやり方で取り組んでいる。納税者への説明責任や、法令による規制の重みなど、公務員として必要な規範意識が当然のこととして叩き込まれる。
- ・（現在のところ）厚生・労働の幅を超えて、様々な業務に就けていること。／他省庁と比べてより国民に生活に直結する施策が多いので、（一般に国民への直接の関わり方が見えにくいと思われる中央官庁の業務の中では）自分の仕事の大切さややりがいを実感できること。
- ・厚生労働行政に関わる様々なことに興味を持つようになった。学生時代より勉強するようになった。
- ・所管法令が広く認識されているので、プライベートでも仕事の話で話が持つ。
- ・厚生労働省にはいろんなバックグラウンドを持った人がいて、いろんな仕事をしています。そういう意味では視野が広がったように思う。
- ・周囲の能力ある人に触発され、自己研鑽しなければという危機感を抱いたこと。

休日の過ごし方は？

Q7 休みの日は何をしていますか？

- ・色々...
- ・仕事のことは考えないようにして、家族と過ごしている。
- ・家族と買い物に出かけることが多い。また、休日は外食をすることが多く、美味しい店を探すのが趣味のひとつである。
- ・スポーツをすることが多い。
- ・ダンスパーティーで色々な人と交流／イタリア語・スペイン語／美術館へ行く／ゆっくり時間をかけて食事 など
- ・同期、大学の先輩や知人等との飲み会、行ったことのない駅の探索・おいしい店探し、映画鑑賞。
- ・趣味の武道、温泉巡り、読書をするなどしている。
- ・今のところ、趣味（読書、料理等）で時間が消えていくことがほとんど。時期によっては、資格試験受験に時間を割いていることも。
- ・おいしいものを食べたり、お酒を飲んだり、映画を見たり、いろんな観光地に出かけたり、と仕事は全く忘れてリフレッシュ。
- ・買い物や旅行。
- ・ショッピングや同期との飲み会。
- ・土曜の午前中は寝て体の疲れを癒し、午後から日曜は運動したり外に出かけて気分をリフレッシュ。3日以上休みになると電車に乗って旅に出ることも。
- ・たくさん寝る。東京の観光スポットで遊ぶ。勉強する。
- ・ランニング（皇居周りなど） 家事（洗濯・掃除 → 一週間分まとめて、料理 → 趣味ではないが侯約のため）



後輩（候補）に向けて一言

Q8 これから公務員を目指す人にメッセージを

- ・公務員の必要性について、よく考えて下さい。人々が安心して、健康に暮らせるためには、公務員制度が必要だと思えば、仕事で多少辛いことがあっても、大体のことは乗り越えられると思います。
- ・公務員に対する風当たりが弱まることは無いと思いますが、やりがいのある仕事があり、尊敬できる先輩がいて、自分が成長できる環境があります。是非、一緒に働きましょう。
- ・公務員を目指すにしろ、民間企業への就職と迷っているにしろ、公務員のセミナーだけでなく、民間企業の工場見学や就職セミナーに数多く参加してほしい。就職活動を行うまでは考えもしなかった予想外の仕事や将来の夢が開けることもあるかもしれないので、将来の進路を決めつけることはせず、幅広い分野の仕事を見て下さい。一度就職してしまうとなかなか機会がない他社の工場見学等ができるのは今のうちだけです。
- ・普段は日々の業務の中でコツコツと小さい改善を積み上げつつ、大きな障害を伴う大きな改善のためには機を見つづ我慢強く外堀を埋めて仕事をしよう、と思える人たちをお待ちしています。
- ・目の前にある社会問題に全力で取りくんでみたいという方は、是非一度（説明会）足を運んでみてください。
- ・公務員に対する世間の風当たりが強く、業務内容も相当きついで、軽い気持ちで目指すのはやめてください。しかし、仕事はやりがいがあり、生涯をかけて取り組む価値はあると思います。国のため人々のために一緒に取り組んでくれる方をお待ちしています。
- ・決して華のある仕事ではなく、むしろ、どちらかと言えば世の中の汚い部分を直視させられる機会の方が多いと思います。当然気が滅入る部分も出てくるわけですが、逆に言えば、社会の現実から目を背けないということでもあり、責任ある社会人としての生き方に直結するものと言うこともできるでしょう。自分の理想すべてが実現できるわけでもなく、どうしても理不尽な部分は残りますが、それでもなお、自分の努力次第で確実に何かを為すことはできる仕事だと思いますので、選択肢としてまじめに考えていただける方は大歓迎です。
- ・公務員の仕事は、いろいろと逆境に立たされるような報道が目立ちがちですが、間違いなくやりがいはあります。幅広く、いろんなことを経験してみたい方、こんな時代だからこそ人の役に立ちたい方、是非一緒にこの職場で働きませんか？
- ・十分な時間のある学生時代に色々な経験をしてください。
- ・公務員というイメージが先行しがちですが、実際に会って話をすると、いろいろな思いを持った人がいることがわかります。省庁や部署によっても雰囲気微妙に違います。まずは説明会などに参加していろいろな人に話を聞いてみるのが大事ではないでしょうか。そういう意味では公務員を目指すことは普通の就職活動とさほど変わらないと思います。私個人としては、いい意味で公務員らしくない方にこそ入省していただいて、新しい厚生労働省、新しい日本を作っていっていただきたいと思っています。
- ・就職活動は自分を見つめ直す良い機会でもあるので、この機会にしっかり悩んで、悔いの無いよう自分の道を進んでほしいと思います。
- ・大学の研究をマシメに行っている学生の方は、研究・試験勉強・時事問題について考える、の全てを完璧にこなすのは困難だとは思いますが、どれもやっておいて損は無いと思います。入省して一緒に働きましょう！